

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は **1** のみで、5 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立富士高等学校附属中学校

問題は次のページからです。

1 次の「文章1」と「文章2」を読み、あとの問題に答えなさい。

(*印のついている言葉には、本文のあとに〔注〕があります。)

文章1

何かをつくり出すには、技術や素材についての知識が必要だ。これら
は見るができるし、言葉で伝えることができるかもしれない。木工
なら、木の切り方やけずり方、木と木を組み合わせる方法や組み立て方、
使いやすい形や大きさ、重さなど、実際にもものをつくるなかで生まれて
きたたくさん技術や知識がある。

しかし、頭の中にもものづくりの知識があっても、「つくる」ことは
できない。そこには、技術と実際の経験が必要だ。わかっているでもでき
ないと言うのは、本当の意味で「わかっていない」のだ。

ものをつくり出すのに必要なことは、技術や知識だけではない。
技術だけでは新しいものはできない。何をつくるのが大切だ。何を
つくるのか思いつくことを、アイデアが浮かぶと言う。アイデアは実際
のところ、ぽっかりと浮かんでくるものではない。アイデアが浮かぶ
のは一瞬^{いっしゆん}だけれども、その背後^{はいご}に長い時間が横たわっている。そういう
時間に敬意^{けい}をはらうことが、ものづくりの基本だ。

ぼくらの生命そして生活は、自然の中で育った食物や材料によって
させえられ、人間はそれらに手を加えて利用し、豊かになってきた。
* 工芸^{やくわり}の役割は、自然環境^{かんきやう}とのかかわりの中で、人びとの生活の質を
高めること、つまり生活を豊かにすることだ。日用品は生活をさせえ、

生活にさせえられてつくり出される。ものたちは、どんな形でもよい
のではなくて、それぞれがそこに住む人びとの考え方を反映^{はんえい}している。
よく考えたものもあれば、思いつきだけではないかと思われるものも
ある。さまざまに思いや考えが、ものたちをつくっている。車やカメラ
やラジオなどの機械もそうだけれど、スプーンやフォークやナイフや
家具も、同じように人びとの考えや思いの結晶^{けつしょう}だ。

つくることができるには、長い道のり、時間が必要な場合もある。
ようやくつくりあげることができて、人は本当の意味で、「もの」を
理解する。「知っている」から「できる」に変化するのだ。おそらく、
そこには、人びとの歴史、考え方、自然環境などが影響^{えいきやう}するだろう。
とくに、生活で使われるものは、そこに住んでいる人たちの生活が形を
つくる。そこでの人びとの生き方が、ものの形をつくるのだ。

工芸は、人から人へ、世代から世代へ伝えるということが大切だ。
そして工芸で使う材料もまた、伝え育てることで存在^{そんざい}している。今、
家具をつくらうと木を植えて育て始めたら、使えるようになるまでに
100年以上かかる。材料によっては、200年以上もかかって生み
出される。かかった月日の長さを思うとき、人びとのつながりや環境を
させえあうということの大切さが見えてくる。

ぼくは、古い道具やすり減った家具を見て、きれいだなと思うこと
がある。あれは、長い時間のなかで、たくさんの人たちがかかわり、
考えてつくり、伝えてきたから美しくなったのだろう。何世代にも
わたって伝えながらつくり出されてきたものは、一人の人間の力では

つくり出せない。時間を超えたコミュニケーションだ。ぼくらの社会や生活が変化していくなかで、ものの形も変化している。

木製の道具や家具は、骨董*こつどうのように過去のものと思われる場合もあるが、スウェーデンでは、ひとつの手法として現代に生きていた。ナイフのけずりあとがあるような、荒あらけずりな木材のもつ表情が、古くさくなるのではなく、現代的ですらある。なぜ古くさく感じないのかという問いの答えは、それが古くないからだ。それを人びとが受けつぎ、「もの」が新しい命、新しい生活をもらう。ぼくは、木工を始めたころ、技術が上がれば工業生産品のように美しいものをつくれると単純たんじゆんに思っていた。正確な機械のようにつくるにはどうしたらよいかと考えていた。ぼくが、今では、時が経たってできた隙間すきまや傷きずすら味があるのだと思うようになった。左右対称たいしやう、正確な円。それだけがすべてではない。ぼくらの生活は、そんなにかたくなくていい。木材はやさしい。もっと自由で良い。

(遠藤敏明「(自然と生きる)木でつくろっ 手でつくろっ」)

(一部改変)による)

(注)

工芸——生活に役立つ品物を美しくつくるわざ。
骨董——古い美術品や古道具で、ねうちのあるもの。

若い時に本を読む意味、効用はいろいろ考えることができます。まずは、その一例を挙げながら、読書について考えてみましょう。

本を読むということは、現在からしたら過去というものに触れる機会と言えます。現在・過去・未来という時間軸のなかで、今と未来は繋がっていますが、その前にあった過去との繋がりが、どんどん希薄になっていくことを年々強く感じます。若い皆さんは、年長者に比べるると、過ごした日々が少ない分、経験した過去の蓄積が少ないですよね。若い皆さんがもっている過去は短くて浅いのです。それを補うものとして、読書という行為が役に立ちます。

年長者が、闇雲に本を読みなさいという行為は、まずは、過去というものを多く持っていない皆さんに、過去を突きつけているようなものなのかもしれないと反省すべきなのです。

現在は、未来から見たら、過去です。言い換えると、未来は過去の蓄積で成り立っています。過去の積み重ねが年をとるということになりました。その過去は、自分自身の過去で成り立っています。

歳を重ねるということは、その分だけ経験値としての過去を持っていきます。その経験値は、未来に備える武器と言ひ換えることができます。未来に備える経験値となるような過去を捨ててしまった私たちは、壁にぶつかってしまった現在の先にある未来を考える力を持ち合わせているでしょうか。

ここに、本を読む意味と未来に備える経験値としての読書の必要性

があるのではないかと私は考えています。

本を読むということは、書き手の言うことをそのまま受け入れて従うということではありません。書かれていることを読み、そこに書かれていないことを考える作業とも言えます。

難しい表現をすると、行間を読むと言います。なぜ、本に書かれていないことが存在するのかというと、書き手と読み手の視点が必ずしも一致しない点にあります。書き手が込めた思いや考えが、読み手である自分にとってはどのようなだろうか？というズレが必ず生まれます。

書かれていることが真実だとすれば、行間には事実があると言えるかもしれませんね。本を読むことで真実と事実を見極める力という、生きていく上ですごく大切な力を身につけることができます。

一般的に、

「真実」嘘のないこと、本当のこと

「事実」現実に起きたこと
と解釈されています。

同じような使われ方をしている「真実」と「事実」の二つの違い。この違いは非常に大きいものです。

「真実」とは、見た人が見たい現実を見ているものであり、それを発する人の価値観を切り離すことができます。

「真実」は一つではなく、人の数ほどあります。

しかし、「事実」は一つなのです。

新聞・テレビ・ラジオ・インターネットなどから受け取る情報は、

その出来事を見た人の目を通して、見てみたい現実を見たものを伝えて
いるのであって、それが「事実」であるということとは違います。

正反対の立場に立つ人が、ある「事実」を見たとしましよう。それ
ぞれが、まったく違う「真実」を語るという場に出合ったことがあり
ませんか。その人の主観、それをどのように汲み取るのか、そこから
どのように「事実」を見つけるのか。

本の中の行間は、真実と真実の間という場所です。本も自分ではない
誰かが書いています。しかし、書き手の主観の間にあるその空間は、
読者のための居場所です。そこで、自分の在り方に沿って物事を考えな
がら読み進めることで、情報社会で生き抜くために必要な武器を手
に入れることができるのです。若い時に読書することで、自然と見極める力が
身につき、自分をデザインするための基礎をつくることができます。

若い時にこそ、文字を追いつ、頭の中でその意味を考え、行間に事実を
探す作業を試みることで、それを自分のものにしてほしいと思っています。

本との出会いは、人との出会いに似ています。皆さんはこれから、
高校生、大学生、社会人と進んでいくにつれ、日本の多様な地域の人と
出会い、また海外の人との出会い、あるいは年齢も多様な人との出会い
が待っています。生まれた地域や年齢による考え方の違いというのは
よくあることです。それは、自分の考えを伝えなければいけない場面の
連続です。10代に本を読むことで、培った他人の声を傾ける力は、
きつと未来の自分の可能性を広げてくれるでしょう。

(田口幹人「なぜ若い時に本を読むことが必要なのだろう」による)

〔注〕

希薄——— 少なくともうすいようす。

蓄積——— 物や力がたまること。

闇雲に——— むやみやたらに。

価値観——— ものごとを評価するときに基準とする判断や

考え方。

汲み取る——— 人の気持ちをおしはかる。

培った——— やしない育てた。

〔問題1〕 古くさく感じないとありますが、なぜそのように言える

のでしょうか。解答らんに当てはまるように二十字以上三十字

以内で **文章1** からぬき出しなさい。

新しい命を感じさせるから。
ことを思わせる隙間や傷のある家具などが、

〔問題2〕 行間を読むとありますが、本を読むことにおいては、

何をどうすることですか。「真実」「事実」という語を用いて説明しなさい。

〔問題3〕 あなたは、これからの学校生活でどのように学んでいこう

と思いますか。あなたの考えを四百字以上四百四十字以内で書きなさい。ただし、次の条件と下の〔きまり〕にしたがうこと。

条件 ① あなたが、**文章1**・**文章2** から読み取った、共通し

ていると思う考え方をまとめ、それをはっきり示すこと。

② ①の内容と、自分はどうのように学んでいくつもりかを関連させて書くこと。

③ 適切に段落分けをして書くこと。

〔きまり〕

○ 題名は書きません。

○ 最初の行から書き始めます。

○ 各段落の最初の字は一字下げて書きます。

○ 行をかえるのは、段落をかえるときだけとします。

○ 、や。や」などもそれぞれ字数に数えます。これらの記号

が行の先頭に来るときには、前の行の最後の字と同じますめに書きます（ますめの下に書いてもかまいません）。

○ 。と」が続く場合には、同じますめに書いてもかまいません。この場合、「。」で一字と数えます。

○ 段落をかえたときの残りのますめは、字数として数えます。

○ 最後の段落の残りのますめは、字数として数えません。